

都市構造可視化計画サイトの活用 ～豊川市立地適正化計画の見直し～

愛知県 豊川市 都市計画課

1. 研修参加の経緯

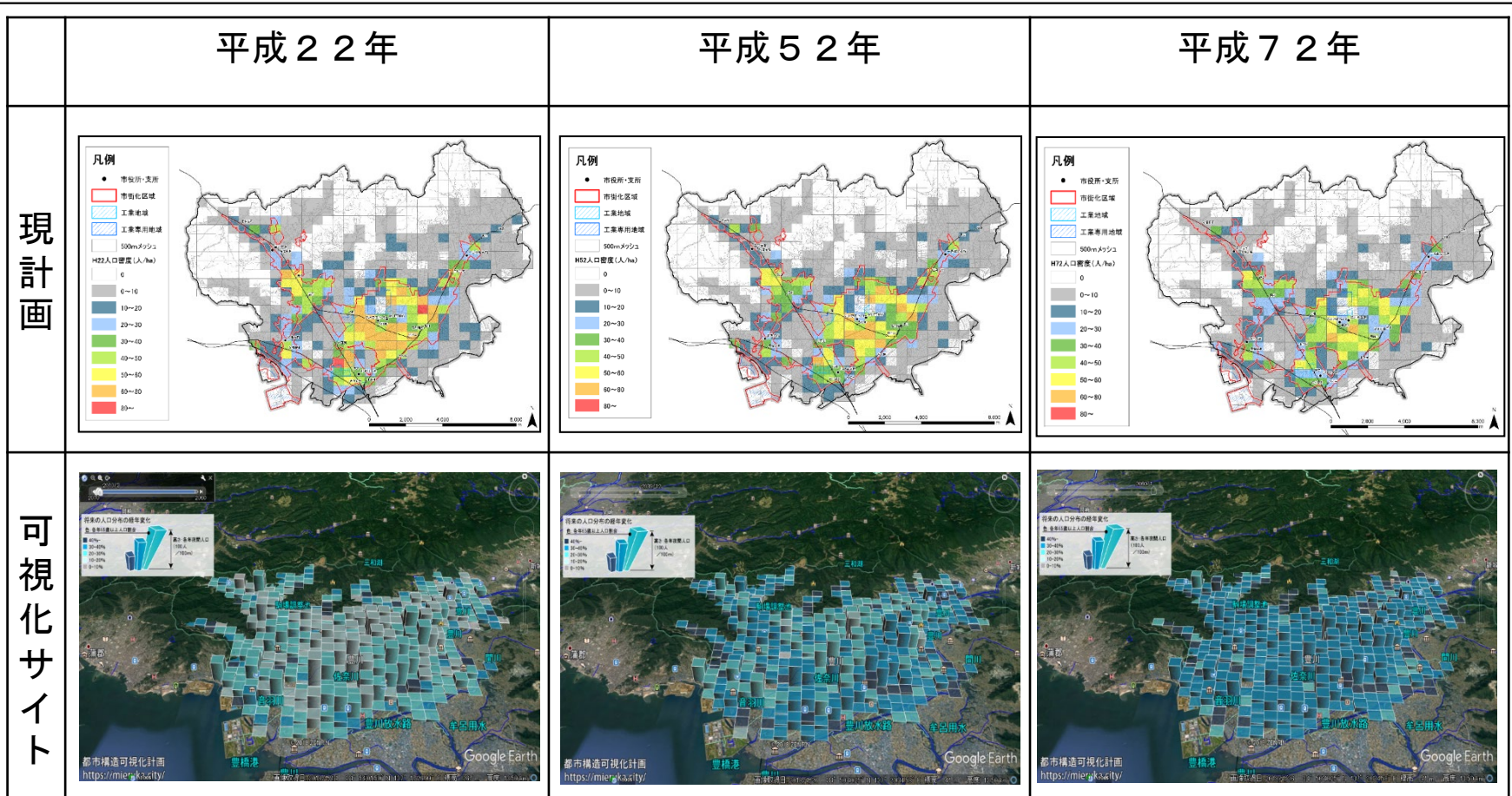
- 豊川市は、平成29年2月に「豊川市立地適正化計画」を策定し、同年3月に公表している。
- 同計画において、5年ごとに都市機能施設の立地動向の評価、区域の設定の再検討及び目標値の評価を行うことと定めている。
- 平成31年度から2カ年かけて「豊川市都市計画マスタープラン」の改定を行う予定であり、都市計画マスタープランの高度化版と位置付けている立地適正化計画についても、時期をあわせて見直しを実施する予定。
- 見直しの中で、都市構造の現状や課題の整理において、都市構造可視化計画サイトで得られる情報を活用した分析ができないか検討するため、研修へ参加した。



以下、活用方法を考察

2. 現計画との比較

人口密度の将来見通し



⇒同等の分析が可能。(国交省国政局のGIS情報を活用。)

2. 現計画との比較

年少人口密度

	平成22年	平成52年	平成72年
現計画			
可視化サイト		データなし	

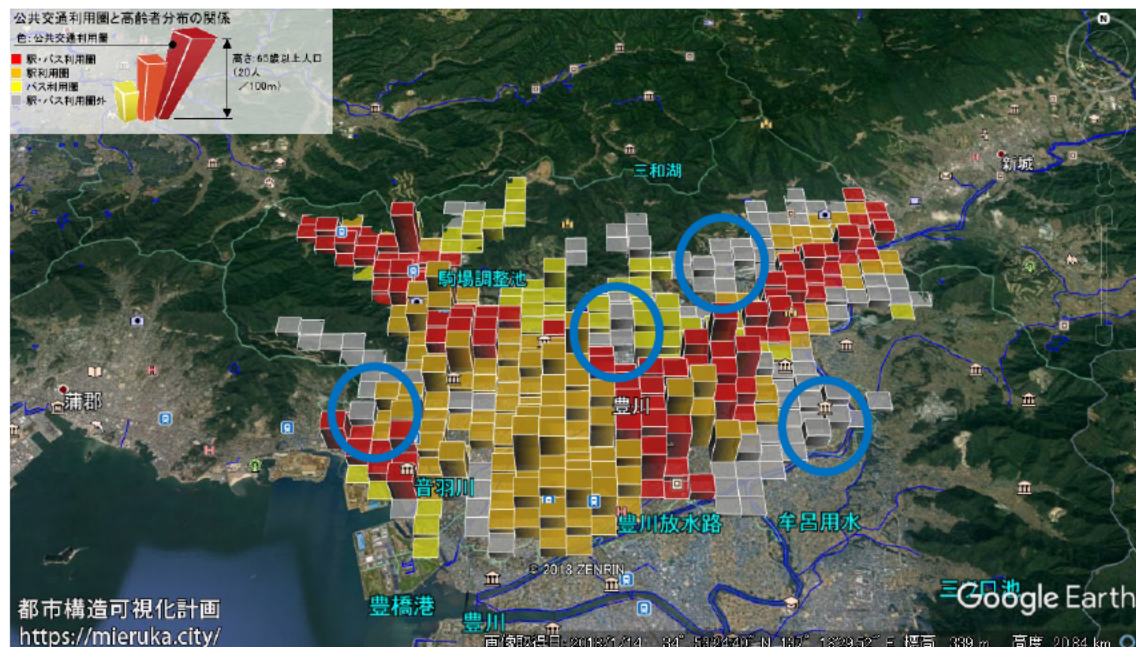
⇒個別の分析又はサイトへのデータアップロードが必要。

3. 誘導施策への活用

「豊川市立地適正化計画」において、都市の将来像の実現のための誘導施策として、公共交通に関する項目を掲げている。

以下、都市構造可視化計画サイトで得られた情報から、施策の方向性を検討。

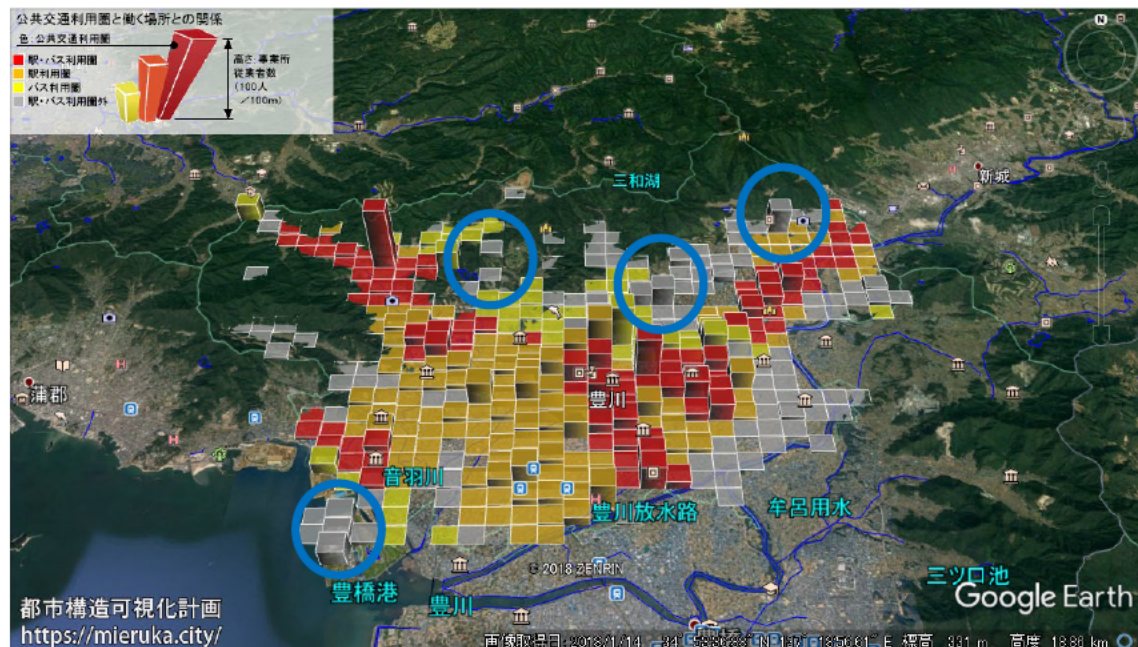
公共交通利用圏と高齢者分布の関係



高齢者（＝交通弱者）
が一定程度いるにも関わらず、公共交通の利用が困難な地域が存在。
↓
車なしでは生活できない。

3. 誘導施策への活用

公共交通利用圏と働く場所との関係



一定数の従業員を擁する事業所があるにもかかわらず、公共交通の利用が困難な地域が存在。

↓
車通勤を選択せざるを得ない。

施策へ反映(案)

- ・公共交通網見直しの際に路線を拡充
- ・拠点への転居へインセンティブを付与 等

4. まとめ

- 現状の把握や分析については、各種統計的なデータが実装されており、活用が可能だと感じた。
⇒担当レベル等、政策を検討する段階での現状把握の根拠資料として活用できる。
- 一方、年齢別の将来人口等、推計については、都市構造可視化計画サイトで得られる情報での把握・分析だけでは不十分な部分もある。
⇒社人研の人口推計や国交省国政局のGIS情報を、内訳等より詳細な情報で実装されれば、さらなる活用が可能となると感じた。
- 分野の異なる情報を紐づけし、地理情報に落として視覚的にデータを確認できるため、数値情報だけでは気づけない視点での政策の提案が可能になると感じた。
⇒高齢者福祉とまちづくり等、組織の垣根を超えた政策提案のきっかけになり得る。

愛知県 豊川市 都市計画課